



夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2024.10.15 号

夏見台幼稚園・保育園でのこだわりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。
※配信停止の方はメールでどうぞ(info@treponte.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園

大谷マインドから学ぶ「結果vsプロセス」

今年も大リーグで大活躍の大谷翔平選手。連日の報道で楽しませてくれました。私は講演のネタにするために、アスリートのコメント集めをよくします。今回も大谷選手にまつわるものを探していたのですが、こんなものを見つけました。

「二刀流は効率がものすごく重要。ダッシュ、ランニング量をどう取り入れるか。」

（盗塁が）体を前に進める1つの方法にもなっているはず。あそこでダッシュしておけば練習でする必要がない。時間を違うことに使える。そこの発想が人と全然違う」

元日ハム監督
栗山英樹さん



大谷選手の師匠(?)とでもいうべき、元日ハム監督の栗山英樹さんのコメントです。時間の足りない大谷選手は、盗塁さえも、日常のトレーニングとしてとらえていたのではないかと驚きです。

またシーズン最終日まで話題になったのが、本塁打・打点・打率の「三冠王」がとれるかどうかでした。本塁打と打点はすでに確定、しかし打率はトップのアラエス選手がわずかに先に行っていました。

結果的に、大谷選手は三冠王にはなれません

でした。その試合後のコメントがこれです。

**（三冠王について）「それはあんまり考えてなかったですかね」と淡々。
「（アラエスと）どのぐらいの差があるのかともちよつとよくわかってないですし。
とりあえず自分のいい打席を送りたいなと思っていました」と普段と同じ気持ちで打席に立っていたことを強調した。**



インタビュー映像を見ましたが、アラエス選手との差がどれくらいあったのか本当に知らなかったようでした。三冠王を狙ってやろう、そんな欲はみじんもなく、ただ普段通りのルーチンに徹していたのでしょう。盗塁さえ練習の一部に組み込む。これが「大谷マインド」です。

では一方のアラエス選手はどうだったのでしょうか？

**「今回ののは大変だった。
昨夜は眠れなかったよ。
僕は人間だからね。
（首位打者について）
考えたくはなかったけど、
すごく考えて
しまったよ」**

パドレス
ルイス・アラエス内野手



アラエス選手は不安でいっぱいだったようです。首位打者という「結果」を求めています。結果を求めると、

「もし結果が得られなかったらどうしよう…」

そんな考えがつねにつきまといます。不安から逃れられないのです。

もちろん、その不安を乗り越えて「結果」を獲得したアスリートはすばらしい。ただ私は、この対照的な考えをした二人のアスリートから学びたいのです。



「結果 vs プロセス」。この二分法。私自身、両者のはざままで苦しんできました。学校時代は成績に追われ、営業マン時代は数字に追われ…。

「いい成績がとれなかったらどうしよう」

結果には不安がセットになっています。そんな状態のときは毎日の生活が楽しめません。やるべき課題をこなし、目の前の顧客の満足度に焦点を当て、プロセスを大切にすれば、先の結果のもたらす不安とは無縁でいられたかもしれない、と今では思います。

ところで今、子どものうつが aumentando しています。心の問題はさまざまなことが絡み合っているので一概にはいえませんが、やはり大きいのは「人間関係」ではないでしょうか。

人間関係において「結果」を求めるとはどういうことでしょうか。それは相手に期待することです。その期待が空回りしたとき「裏切られた」と感じたりします。

しかしそもそも、

人の心はコントロールできないもの

です。コントロールできないものをコントロー

ルしようとして、多くのエネルギーが消費されます。疲れ果て、心を閉ざします。特に今はSNSがあります。つねに外からの情報に振り回されるのです。



「外か内か」という二分法は、私が園の説明会でお話しするものです。教育には2つの流れがあります。子どもを「外」から教え込むか、子どもの「内」にあるものを引き出すか。主体性を引き出すならば「内」を大切にすべきです。

それはまさに、本日のテーマである「結果かプロセスか」という二分法でもあります。外の結果に追われると不安がついてきます。そうではなく、大谷選手のマインドのように内なるプロセスにフォーカスすれば、不安から解放され、人生を楽しむことさえ可能です。

私たちの園の教育目標「楽しい！うれしい！やってみたい！」はまさにそこをめざすものです。就学前の大事な時期は内発的に動機づけられた活動を行うことが大切であると、私は強調したいです。(終)